

再評価調書

NO. 1

事業名	街路事業	事業区間	3・4・1 福井縦貫線 福井市毛矢1丁目～西木田1丁目			
事業目的						
<p>当路線は、福井市街地を南北に縦貫し、都市の骨格軸となる道路景観を形成する幹線道路であり、路面電車が走る福井らしい景観を形成している。</p> <p>これまでに、幸橋南詰からフェニックスプラザ前までの区間において、平成4年度から順次、魅力あふれる都市景観の整備(無電柱化)を図ってきた。</p> <p>当該整備区間は、商業施設等が集中立地しており、歩行者・自転車等の通行が多く、都市景観の向上に加え、安全・快適な歩行空間の確保や防災対策の観点から無電柱化を図るものである。</p>						
全体事業内容						
全体延長 L= 580m 電線共同溝 L=1160m 歩道整備 1式 移設補償費 1式 測量調査設計 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成26年度	平成26年度	平成26年度	平成34年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H30年度まで)	進捗率 (H30末)	残事業費 (H31以降残額)	備考
予 算 額		2,100,000	791,086	37.7%	1,308,914	
財 源 内 訳	国 庫	864,942	361,607	/	503,335	
	県 他	1,235,058	429,479		805,579	
費用対効果		-				
事業の進捗状況	H30までの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事前移設工事補償の完了。 ・電線共同溝1160mのうち、東側320m区間の工事完了を予定している。 				
	H31以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> ・東側工区の残りと西側工区において電線共同溝整備を進めていく。 ・平成34年度完了見込み。 				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	15.0億円	21.0億円	<ul style="list-style-type: none"> ・地質調査の結果、当初想定より高い位置に地下水水位があり、路面軌道横断部の掘削費(開削工法⇒推進工法)が増大(1.9億円) ・労務費、資材費の高騰、諸経费率改定(4.1億円) 			
完成予定年度	平成32年度	平成34年度	各電線事業者や地元との調整(機器配置計画)に時間を要したため、事業期間の2年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
電線共同溝は区間全体が完成し、参画企業が入線および抜柱をして初めて効果が発生するため、事業休止した場合、電線共同溝としての効果はゼロとなる。						
備 考						

再評価調書

NO. 2

事業名	道路改良事業	事業区間	一般県道 福井森田丸岡線 坂井市春江町寄安～中筋			
事業目的						
一般県道福井森田丸岡線は、福井市の国道416号を起点とし坂井市春江町沖布目で地域高規格道路の福井港丸岡インター連絡道路に接続する幹線道路である。現在、坂井市と福井市中心部を結ぶ九頭竜川渡河部で交通渋滞が発生している。当該路線の整備により、九頭竜川渡河部で発生する交通渋滞を緩和し、嶺北北部地域における物流および交流の活性化を図ることを目的とするものである。						
全体事業内容						
全体延長 L=600m 幅員21.25m(4車線) 一般部 575m 橋梁部 25m【磯部川:(仮称)磯部川橋】						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成34年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H30年度まで)	進捗率 (H30末)	残事業費 (H31以降残額)	備考
予算額		3,400,000	2,146,261	63.1%	1,253,739	
財源内訳	国庫	1,966,745	1,277,188		689,556	
	県他	1,433,255	869,073		564,183	
費用対効果		2.12(総便益482億円 総費用227億円)				
事業の進捗状況	H30までの状況	(仮称)磯部川橋完了。上下線ともに路床360m完了。				
	H31以降残事業	北陸新幹線建設工事と施工調整を行い、相互に工事ができるよう調整中。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	34.0億円	34.0億円	変更なし			
完成予定年度	平成30年度	平成34年度	・北陸新幹線建設工事との工程調整の結果、道路改良区間の一部について着手時期が遅れることになり事業期間の4年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
<ul style="list-style-type: none"> 坂井市と福井市中心部を結ぶネットワークが形成されない。 計画交通量をさばく道路網が構築されないため、交通渋滞が解消されない。 森田北東部土地区画整理事業によって整備された道路との連続性が確保できない。 						
備考						

再評価調書

NO. 3

事業名	道路改良事業		事業区間	福井港丸岡インター連絡道路 坂井市坂井町福島～丸岡町八ツ口		
事業目的						
福井港丸岡インター連絡道路は、福井県坂井市を東西に横断し、広域交流拠点である「福井港」および県下最大の工業団地である「テクノポート福井」と北陸自動車道丸岡インターとを直結する延長約20kmの地域高規格道路である。本道路は、福井県北部の道路ネットワークを強化し、地域産業の活性化および東西に位置する主要観光地を最短で結び観光振興を図るとともに、太平洋側に甚大な被害をもたらす南海トラフ地震等発生時の緊急物資輸送路として、福井港(油槽所)と北陸自動車道の連絡を強化することを目的とした事業である。						
全体事業内容						
全体延長 L=3,600m 幅員10.5m(暫定2車線) 内 橋梁部 3橋						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成37年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H30年度まで)	進捗率 (H30末)	残事業費 (H31以降残額)	備考
予 算 額		9,600,000	2,774,500	28.9%	6,825,500	
財 源 内 訳	国 庫	5,034,150	1,458,600	/	3,575,550	
	県 他	4,565,850	1,315,900		3,249,950	
費用対効果		1.33(総便益112.9億円 総費用84.4億円)				
事業の進捗状況	H30までの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・用地買収、物件補償 ・測量、設計、埋蔵文化財試掘調査 ・水路付替、境界擁壁工 				
	H31以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> ・用地買収、物件補償、埋蔵文化財発掘調査 ・道路改良工事 ・橋梁工事 				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	96.0億円	96.0億円	変更なし			
完成予定年度	平成37年度	平成37年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
<ul style="list-style-type: none"> ・嶺北北部の東西方向のネットワークが強化されず、交通渋滞が解消しない ・整備中の(一)福井森田丸岡線の連続性が確保できず、ネットワークが構築されない 						
備 考						

再評価調書

NO. 4

事業名	砂防事業	事業区間	未更毛川支川 福井市羽坂町～本堂町			
事業目的						
<p>未更毛川支川は、福井県福井市の西部に位置し、人家91戸および一般県道殿下福井線や安居小学校など多くの公共施設を保全対象に含む土石流危険渓流である。</p> <p>平成23年5月の大雨により、下流域の人家に被害が生じた。現在も渓流の侵食・荒廃が激しく、溪床には多量の不安定土砂が堆積していることから、今後の大雨等により土石流が発生する恐れがあるため、砂防堰堤を整備し下流域の住民の生命と財産を保全する必要がある。</p>						
全体事業内容						
堰堤工 2基 調査測量設計 1式 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成26年度	平成27年度	平成31年度	平成36年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (H30年度まで)	進捗率 (H30末)	残事業費 (H31以降残額)	備考
予 算 額		471,000	132,115	28.0%	338,885	
財 源 内 訳	国 庫	224,500	63,015	/	161,485	
	県 他	246,500	69,100		177,400	
費用対効果		22.59(総便益94.22億円 総費用4.17億円)				
事業の進捗状況	H30までの状況	五反田川および雲井谷川の用地補償が完了。				
	H31以降残事業	五反田川および雲井谷川の砂防堰堤(H31～H36)を完成させ、人家91戸、安居小学校や西安居保育園などの公共施設を保全する。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	4.7億円	4.7億円	変更なし			
完成予定年度	平成33年度	平成36年度	用地買収にあたり、事業用地の一部について相続手続きが行われていないことが判明したため、その相続人の調査および遺産分割協議の手続きに約3年を要した			
事業を休止した場合の影響						
今後の大雨等により土石流が発生した場合、下流域の人家等に多大な被害が生じる恐れがある。						
備 考						

再評価調書

NO. 5

事業名	急傾斜地崩壊対策事業	事業区間	加茂河原地区 福井市加茂河原町			
事業目的						
<p>加茂河原地区は福井県福井市中央部の福井市加茂河原町に位置し、保全対象として人家63戸、および避難道路である市道中央3-465号線を含むがけ高30～85m、勾配30°～49°の急傾斜地である。</p> <p>当該斜面は、近隣で斜面崩壊が発生するなど、斜面の風化が進んでおり、今後の大雨等によりがけ崩れが発生する恐れがあるため、急傾斜地崩壊対策工事を実施し住民の生命と財産を保全する必要がある。</p>						
全体事業内容						
重力式擁壁工 477m 崩壊土砂防止柵工 60m 調査測量設計 1式						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成34年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (H30年度まで)	進捗率 (H30末)	残事業費 (H31以降残額)	備考
予 算 額		682,500	370,710	54.3%	311,790	
財 源 内 訳	国 庫	308,750	170,240	/	138,510	
	県 他	373,750	200,470		173,280	
費用対効果		4.66(総便益30.23億円 総費用6.49億円)				
事業の進捗状況	H30までの状況	重力式擁壁工140.0m、崩壊土砂防止柵工60.0mが完了。				
	H31以降残事業	今後引き続き、重力式擁壁工を進め、平成34年度の完成を目指す。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	4.7億円	6.8億円	・工事着工後、当初の想定よりも表土が厚いことが判明したため、鉄筋挿入工の追加、または重力式擁壁を崩壊土砂防止柵に変更する必要が生じた(1.2億円) ・労務費、資材費の高騰、諸経费率改定(0.9億円)			
完成予定年度	平成32年度	平成34年度	当初の想定より表土が厚かったことによる追加ボーリングと対策工法の設計に約1年、鉄筋挿入工を追加したことによる工事量の増加により約1年を要したため、事業期間の2年延長が必要となった			
事業を休止した場合の影響						
今後の大雨等によりがけ崩れが発生した場合、斜面下の人家等に多大な被害が生じる恐れがある。						
備 考						

再評価調書

NO. 6

事業名	基幹河川改修事業		事業区間	一級河川 竹田川 坂井市三国町汐見～あわら市番田		
事業目的						
<p>竹田川は、一級河川九頭竜川の支川で、上流の坂井市丸岡町からあわら市の市街地を経て、坂井市三国町に流れる河川である。</p> <p>流下能力を現況650m³/sから計画1,300m³/s(治水安全度1/12→1/50)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=6,400m 築堤護岸工 L=6,400m、橋梁6橋、排水機場 3箇所、用地補償 1式</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和50年度	平成4年度	平成8年度	平成40年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H30年度まで)	進捗率 (H30末)	残事業費 (H31以降残額)	備考
予 算 額		26,000,000	19,570,701	75.3%	6,429,299	
財 源 内 訳	国 庫	12,873,502	9,811,931	/	3,061,571	
	県 他	13,126,498	9,758,770		3,367,728	
費用対効果		10.05(総便益5,671.1億 総費用564.4億円)				
事業の進捗状況	H30までの状況	全体延長6.4kmのうち、左岸側は九頭竜川合流点から1.5km地点までの区間、右岸側は合流点1.0km地点から1.5km地点の区間の築堤が完了している。また、港橋・栄橋架替えが完了している。				
	H31以降残事業	兵庫川合流点から竹松橋上流の区間について、左岸引堤、右岸築堤、橋梁架替を進めていく。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	260.0億円	260.0億円	変更なし			
完成予定年度	平成35年度	平成40年度	地元交渉難航により、不測の日数を要したため、事業期間の延長が必要となった。(5年延長)			
事業を休止した場合の影響						
<p>事業を休止した場合、坂井市役所三国総合支所、消防本部等の防災拠点、えちぜん鉄道(3km)、国道305号等の広域交通施設及び病院、幼稚園等の災害弱者施設、坂井市三国町、あわら市の大部分の住宅等に対し、洪水に伴う被害が及ぶ。地元からも早期改修を求められている中、住民生活上大きな影響があり安全性が確保できない。</p>						
備 考						

再評価調書

NO. 7

事業名	基幹河川改修事業		事業区間	一級河川 兵庫川 坂井市三国町楽円～坂井町下兵庫		
事業目的						
<p>兵庫川は、一級河川竹田川の支川で、坂井平野の集落間をぬって流れる河川である。 流下能力を現況41m³/sから計画180m³/s(治水安全度1/2以下→1/10)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。</p>						
全体事業内容						
全体延長 L=6,840m 築堤護岸工 L=6,840m 橋梁 10橋 堰 2基 用地補償 1式						
事業計画	事業採択年度		用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度
	平成元年度		平成2年度	平成2年度		平成40年度
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H30年度まで)	進捗率 (H30末)	残事業費 (H31以降残額)	備考
予 算 額		11,700,000	4,243,200	36.3%	7,456,800	
財 源 内 訳	国 庫	5,819,048	2,192,000		3,627,048	
	県 他	5,880,952	2,051,200		3,829,752	
費用対効果		1.29(総便益218.1億円 総費用169.4億円)				
事業の進捗状況	H30までの状況	全体延長6.8kmのうち、下流から6.3kmまでの区間が、橋梁等の一部を除いて完了している。				
	H31以降残事業	清永橋からえちぜん鉄道橋間の河道掘削および橋梁の架替を進めていく。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	117.0億円	117.0億円	変更なし			
完成予定年度	平成35年度	平成40年度	用地交渉難航により、不測の日数を要したため、事業期間の延長が必要となった。(5年延長)			
事業を休止した場合の影響						
<p>事業を休止した場合、多くの住宅等、学校、幹線道路等に対し、洪水に伴う被害が及ぶ。地元からの早期改修を望まれている中、住民生活上に大きな影響があり安全性が確保できない。</p>						
備 考						

再評価調書

NO. 8

事業名	基幹河川改修事業		事業区間	一級河川 江端川 福井市江守の里～太田町		
事業目的						
<p>江端川は、九頭竜川水系一級河川日野川の支川で福井市の南部市街地を流れる河川である。流下能力を現況70m³/sから計画180m³/s(治水安全度1/7未満→1/50)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=5,709m 掘削築堤護岸工 L=5,709m 橋梁 17橋 排水機場1式 樋門・樋管 35基 用地補償1式</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和52年度	昭和52年度	昭和52年度	平成40年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H30年度まで)	進捗率 (H30末)	残事業費 (H31以降残額)	備考
予 算 額		36,193,000	25,649,900	70.9%	10,543,100	
財 源 内 訳	国 庫	17,801,545	12,615,916		5,185,629	
	県 他	18,391,455	13,033,984		5,357,471	
費用対効果		1.35(総便益1,645.1億円 総費用1,217.0億円)				
事業の進捗状況	H30までの状況	全体延長5.7kmのうち、最下流部(江守の里)から江端町までの3.7km区間が完了している。そこから、高橋川との合流部である約3.9kmまでは、左岸のみが完了している。				
	H31以降残事業	3.8kmから上流区間の左岸河道掘削および橋梁の架替を進めていく。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	361.9億円	361.9億円	変更なし			
完成予定年度	平成35年度	平成40年度	用地交渉難航により、不測の日数を要したため、事業期間の延長が必要となった。(5年延長)			
事業を休止した場合の影響						
<p>事業を休止した場合、多くの住宅・学校・病院・福祉施設・幹線道路等が洪水で被害を受け、住民生活に多大な影響を及ぼす。また、近年度重なる豪雨浸水被害が続発しており、地域住民からも事業促進の声が高い中で、洪水防御が急務な区間における事業休止による影響は甚大である。</p>						
備 考						

再評価調書

NO. 9

事業名	基幹河川改修事業		事業区間	一級河川 荒川 福井市勝見1丁目～吉田郡永平寺町松岡吉野		
事業目的						
<p>荒川は、一級河川足羽川の支川であり、福井市の東部市街地を流れる河川である。流下能力を現況30m³/sから70m³/s(治水安全度1/2→1/30)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=10,600m 築堤護岸工 L=10,600m 遊水地 2箇所 橋梁 30橋 樋門・樋管 25基 用地補償 1式</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和35年度	昭和35年度	昭和35年度	平成45年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H30年度まで)	進捗率 (H30末)	残事業費 (H31以降残額)	備考
予 算 額		27,000,000	14,611,450	54.1%	12,388,550	
財 源 内 訳	国 庫	12,857,143	6,957,833		5,899,310	
	県 他	14,142,857	7,653,617		6,489,240	
費用対効果		1.88(総便益1,563.3億円 総費用830.8億円)				
事業の進捗状況	H30までの状況	全体延長10.6kmのうち、下流から約5.2kmまでの区間の改修が完了している。また、上流部は遊水地と中部縦貫自動車の整備に合わせた約0.3kmの区間の改修が完了している。				
	H31以降残事業	上流部の流下断面が不足している区間において、河道拡幅および護岸の整備、橋梁の架け替えを進めていく。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	270.0億円	270.0億円	変更なし			
完成予定年度	平成45年度	平成45年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
<p>中下流の河道の拡幅および下流端の水門改築により、浸水被害の発生頻度は減少しているものの、上流部では大雨による浸水被害が発生している。住民からも早急な河川改修および遊水地の供用が望まれている。このような中、事業を休止した場合、住民生活上、洪水に伴う大きな影響があり安全性が確保できない。</p>						
備 考						

再評価調書

NO. 10

事業名	基幹河川改修事業		事業区間	一級河川 底喰川 福井市地藏堂町～大願寺1丁目		
事業目的						
<p>底喰川は、一級河川日野川の支川で福井市中心部を流れる河川である。流下能力を現況50m³/sから85m³/s(治水安全度1/1→1/10)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=5,880m 掘削護岸工 L=5,880m 橋梁 36橋 用地補償 1式</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和54年度	昭和54年度	昭和54年度	平成40年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H30年度まで)	進捗率 (H30末)	残事業費 (H31以降残額)	備考
予 算 額		31,000,000	22,781,900	73.5%	8,218,100	
財 源 内 訳	国 庫	14,761,905	10,848,524		3,913,381	
	県 他	16,238,095	11,933,376		4,304,719	
費用対効果		2.13(総便益1,521.6億円 総費用713.3億円)				
事業の進捗状況	H30までの状況	全体延長5.88kmのうち、下流から約4.3kmまでの区間の改修を完了している。長左橋の架替工事が平成29年度に完了した。				
	H31以降残事業	今後も用地買収を先行させつつ、河道拡幅および橋梁の架け替えを進めていく。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	310.0億円	310.0億円	変更なし			
完成予定年度	平成40年度	平成40年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
<p>未改修区間として密集した市街地部が約1.6km残っており、浸水被害が多発している。特に上流部においては、早期の改修を求める声は大きい。このような中、事業を休止した場合、住宅・学校・鉄道・病院・幹線道路等に対し、洪水に伴う被害が及ぶことで市民生活上重大な影響があり、安全性が確保できない。</p>						
備 考						

再評価調書

NO. 11

事業名	海岸環境整備事業		事業区間	敦賀港海岸 敦賀市 赤崎		
事業目的						
<p>敦賀港海岸赤崎地区は、北陸自動車道敦賀I. Cおよび一般国道8号から近く交通の便が良いところから、中京・関西方面の海水浴客で賑わっていた。しかし、海浜侵食によって海浜幅が減少し、背後民家への越波被害や駐車場、利便施設の不足による海水浴場としての魅力低下が問題となっている。</p> <p>離岸堤、護岸などの海岸保全施設や駐車場、サニタリー棟などの背後地の整備を行い、越波被害の防止や海水浴場としての魅力回復を図る。</p>						
全体事業内容						
全体延長L=1,200m 離岸堤 L=440m 突堤 5基 護岸 L=1,294.5m 人工海浜(養浜) V=289,000m ³						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和61年度	-	昭和61年度	平成36年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H30年度まで)	進捗率 (H30末)	残事業費 (H31以降残額)	備考
予 算 額		8,350,000	7,740,224	92.7%	609,776	
財 源 内 訳	国 庫	2,783,333	2,580,075	/	203,259	
	県 他	5,566,667	5,160,149		406,517	
費用対効果		1.17(総便益232.3億円 総費用199.1億円)				
事業の進捗状況	H30までの状況	鞠山(H7)・田結(H15)・赤崎C工区(H29)については整備が完了し、海水浴場として供用している。				
	H31以降残事業	赤崎D工区の護岸工(460m)の完成を目指す。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	83.5億円	83.5億円	変更なし			
完成予定年度	平成31年度	平成36年度	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路交通を確保するため、2工区同時施工を1工区ずつの施工としたため4年延長となった。 供用開始地区内からの砂の流出等の状況を確認する期間が1年必要となったため。 			
事業を休止した場合の影響						
高波浪時に越波被害が発生し、住民生活に多大な影響を及ぼす恐れがある。						
備 考						

再評価調書

NO. 12

事業名	道路改良事業	事業区間	一般国道365号 丹生郡越前町梅浦			
事業目的						
<p>当路線は丹南地方における地域間交流や観光・産業の振興、また災害時の第一次緊急輸送道路にも指定されている重要な路線である。しかし越前町梅浦地区で幅員狭小、ヘアピンカーブなど線形不良区間が連続し、急勾配でもあることから、大型車のすれ違いが困難で安全な通行に支障をきたしている。</p> <p>当区間の整備により、越前海岸と北陸自動車道および国道8号を嶺北中央部で東西に直結する幹線道路が形成され、越前町の観光・産業の振興が図られる。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=1,220m 幅員9.0m(車道幅員6.0m) 一般部 664.0m 橋梁部 341.0m トンネル部 215.0m</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成23年度	平成25年度	平成28年度	平成34年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H30年度まで)	進捗率 (H30末)	残事業費 (H31以降残額)	備考
予 算 額		6,600,000	1,726,700	26.2%	4,873,300	
財 源 内 訳	国 庫	2,864,084	775,528		2,088,556	
	県 他	3,735,916	951,172		2,784,744	
費用対効果		1.02(総便益61.3億円 総費用60.3億円)				
事業の進捗状況	H30までの状況	平成29年度に用地補償が完了。				
	H31以降残事業	平成34年度に工事を完了し、平成35年度の全線供用を図る。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	42.0億円	66.0億円	<ul style="list-style-type: none"> ・地すべり詳細調査の結果、当初想定規模以上の地すべりが明らかとなり、地すべり対策費が増大(5.9億円) ・詳細測量調査の結果、落石対策費の増(2.2億円)、擁壁基礎地盤改良費の増(1.5億円)、工事中仮橋の増(2.7億円)、トンネル掘削方法の見直しによる増(7.1億円) ・労務費、資材費の高騰、諸経费率改定(4.6億円) 			
完成予定年度	平成32年度	平成34年度	<ul style="list-style-type: none"> ・相続・抵当権問題の解決に時間を要し用地補償の完了が遅れ、事業期間の2年延長が必要となった。 			
事業を休止した場合の影響						
<p>・現道は幅員狭小(最小幅員5.0m)、急勾配(最急勾配10%)、線形不良であるため、地域間交流や観光、産業の振興および安全で円滑な通行が確保できない。</p>						
備 考						